
目次

はじめに

1	本書の目的および作成過程	1
2	キャリア理論・カウンセリング理論を知る意義	3
3	各章の構成および特徴	4
4	留意事項	8

I キャリア理論編

1	パーソンズの職業選択理論	12
2	スーパー①—キャリア自己概念	16
3	スーパー②—ライフ・キャリア・レインボー	20
4	フォンドラセックらの職業発達理論モデル	24
5	ホランドの6角形モデル	28
6	キャリア意思決定理論	32
7	キャリア自己効力感①—バンデューラの4つの情報源	36
8	キャリア自己効力感②—社会認知的キャリア理論	40
9	自己決定理論	44
10	やりたいこと志向	48
11	認知的情報処理論	52
12	プラント・ハップンスタンス理論	56
13	キャリア・カオス理論	60
14	サヴィカス①—キャリア構築理論	64
15	サヴィカス②—キャリア構築インタビュー	68
16	社会構成主義と心理的構成主義	72
17	質的キャリア・アセスメント	76
18	精神性（スピリチュアリティ）のキャリアカウンセリング	80
19	文化に配慮したキャリアカウンセリング	84
20	シャインの組織内キャリア発達理論	88
21	クラムのメンタリング理論	92
22	シュロスバーグのキャリア理論	96
23	ピーヴィーのソシオダイナミック・カウンセリング	100
24	キャリアカウンセリング・プロセス	104
25	システムティックアプローチ	108

26	レビンソンの発達段階	112
27	エリクソンの発達段階	116
28	マーシャの同一性地位	120
29	ハンセンの統合的ライフ・プランニング	124
30	ホープ・アクション理論	128
31	プロティアン・キャリア	132
32	ジョブ・クラフティング	136
33	コ克蘭のナラティブ・アプローチ	140
34	ストーリーード・アプローチ	144
35	ブルステインのワーキング心理学	148
36	社会正義のキャリア支援	152

II カウンセリング理論編

1	基本的態度①—人とつながる力	158
2	基本的態度②—問いかける力	162
3	基本的態度③—支援者としての3つの役割	166
4	カウンセリング技法①—非言語	170
5	カウンセリング技法②—言語	174
6	精神分析的アプローチ（防衛機制）	178
7	アドラー心理学	182
8	交流分析	186
9	クライアント中心療法①—その世界観	190
10	クライアント中心療法②—人格の変化の方向性	194
11	フォーカシング	198
12	構成的グループエンカウンター	202
13	応用行動分析	206
14	認知行動的アプローチ①—基礎	210
15	認知行動的アプローチ②—応用	214
16	ソーシャルスキル・トレーニング	218
17	コミュニティアプローチ	222
18	ソーシャルサポート	226
19	ブリーフセラピー	230
20	解決志向カウンセリング	234
21	グループ・ファシリテーション	238
22	動機づけ面接	242

23	ポジティブ心理学	246
24	ナラティブ・アプローチ	250
25	マイクロカウンセリング技法	254
26	投映法・描画法	258
27	ロゴセラピー	262
28	家族療法（システムック・アプローチ）	266
29	ストレス・コーピング	270
30	行動活性化療法	274
31	ACT（アクセプタンス&コミットメント・セラピー）	278
32	マインドフルネス	282
33	弁証法的行動療法	286
34	セルフ・コンパッション	290
35	オンラインカウンセリング	294
36	統合的心理療法	298
おわりに		302
索引		304